

## 防災人材育成におけるアクティブラーニングの活用

三上 卓（徳島大学環境防災研究センター）

中野 晋（徳島大学環境防災研究センター）

湯浅恭史（徳島大学環境防災研究センター）

金井純子（徳島大学工学部創成学習開発センター）

### 1. はじめに

徳島大学では、香川大学と共同で、『平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業』において「四国防災・危機管理特別プログラム共同開設による専門家の養成」事業を行っている<sup>1)</sup>。

本稿では、「四国防災・危機管理特別プログラム」における防災人材育成の講義・演習におけるアクティブラーニングの活用について紹介する。

### 2. 授業内容

「四国防災・危機管理特別プログラム」のカリキュラムの中で、共通科目4科目7単位、専門科目各コース3科目5単位を実施している。本講では、共通科目の一つである「リスクコミュニケーション」（徳島大学・香川大学同時開講）と行政・企業コースの「事業継続計画（BCP）の策定と実践」（徳島大学開講）での活用事例を紹介する。

「リスクコミュニケーション」は16回の講義を10名の常勤・非常勤講師で実施し、講義だけでなく演習を多く用い、『講義1：演習1』となるように授業内容を工夫している。さらに、徳島大学・香川大学をTV会議システムを用いて同時開講していることから、両拠点に教員・TAを複数配し、演習におけるグループワークの進行や質問・回答に対応できる体制を取っている。

「事業継続計画（BCP）の策定と実践」は徳島大学のみで実施している科目である。この科目は自治体および企業のBCP策定に関する講義であり、講義に加え、グループでディスカッションやワークを重点的に実施するようにしている。

その他の科目にも共通して言えることであるが、本プログラムでは社会人科目等履修生と大学院生が受講しており、講義においてはその点も配

慮して実施しないといけない。その反面、社会人と大学院生がグループワークを一緒にすることで両者に相乗効果が表れている。

### 3. 授業評価アンケート結果（徳島大学）

図-1～図-4に、2016前期授業評価アンケートの結果を大学院生および社会人別に示す。

「リスクコミュニケーション」のアンケート結果である図-1および図-2のQ4ではグループワーク形式に対する問いでは、社会人で約73%、大学院生で100%が「非常に満足」と回答している。ただし、Q5に示すTV会議システムを用いた講義については、社会人・大学院生ともに、他の問いに比べ低い満足度となっていることから、今後の検討課題と言えるが、反面、両拠点に教員およびTAを配置してのグループワークについてはその効果が出ていると考えられる。

「事業継続計画（BCP）の策定と実践」のアンケート結果である図-3および図-4のQ4ではグループワーク形式に対する問いでは、社会人・大学院生ともに約67%が「非常に満足」と回答している。

### 4. おわりに

本プログラムはTV会議システムを用いた香川大学（工学部・医学部）と徳島大学の3拠点での講義を行っており、講義での満足度がやや劣っている部分は見受けられるが、本プログラムで重視しているアクティブラーニングを目的とした演習重視の講義は、教員およびTAを配置する等の工夫により効果的な講義が行われているという結果が得られた。これにより、専門性の高く担当教員の確保が困難な授業については、四国5大学においても共通開講することができると思われる。

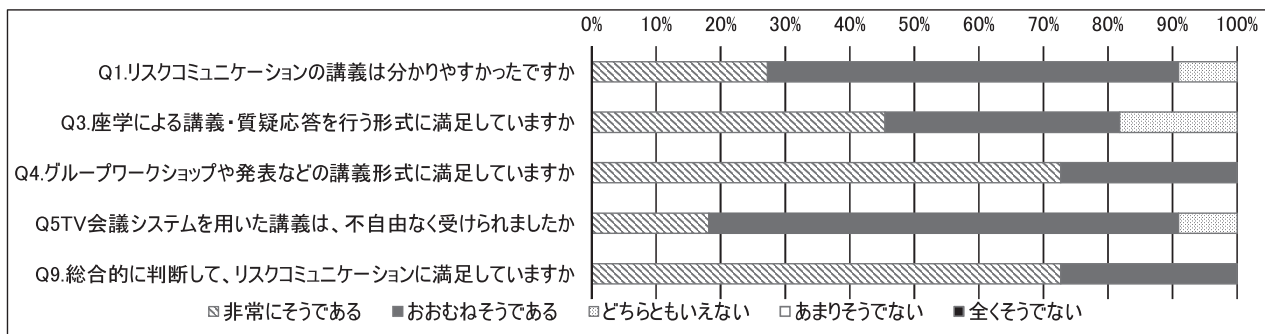


図-1 授業評価アンケート結果 (リスクコミュニケーション：社会人 n=11)

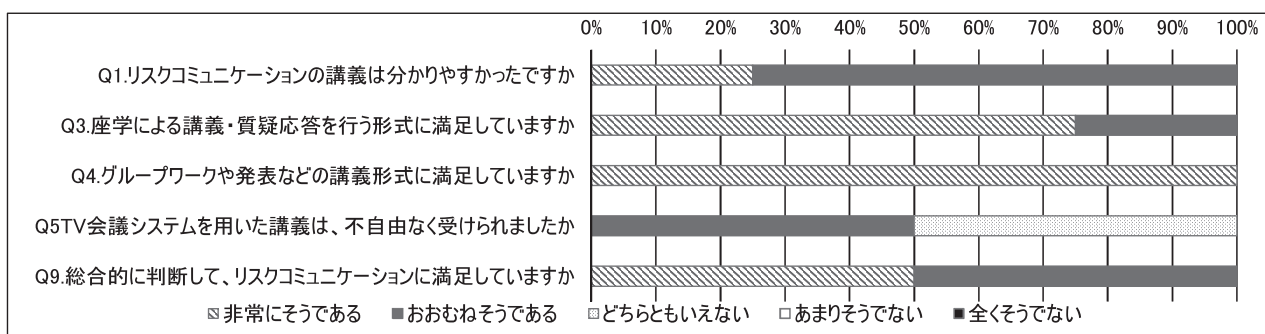


図-2 授業評価アンケート結果 (リスクコミュニケーション：大学院生 n=4)

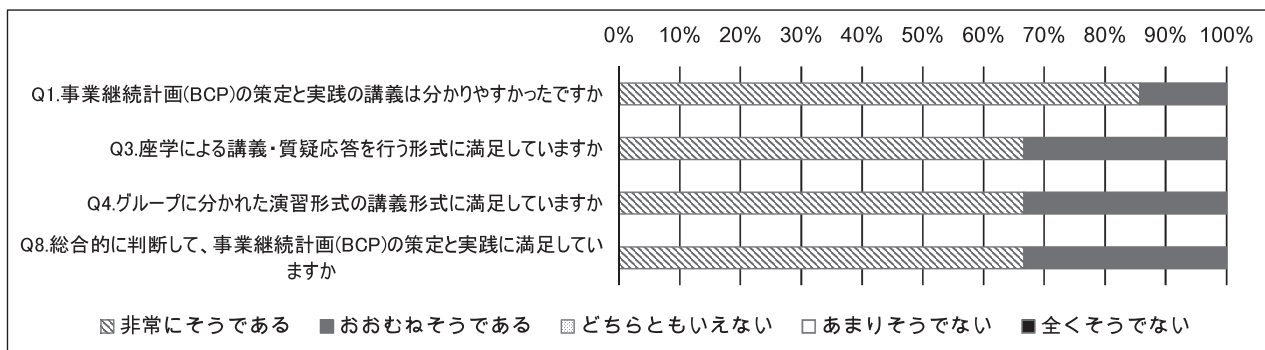


図-3 授業評価アンケート結果 (事業継続計画(BCP)の策定と実践：社会人 n=6)

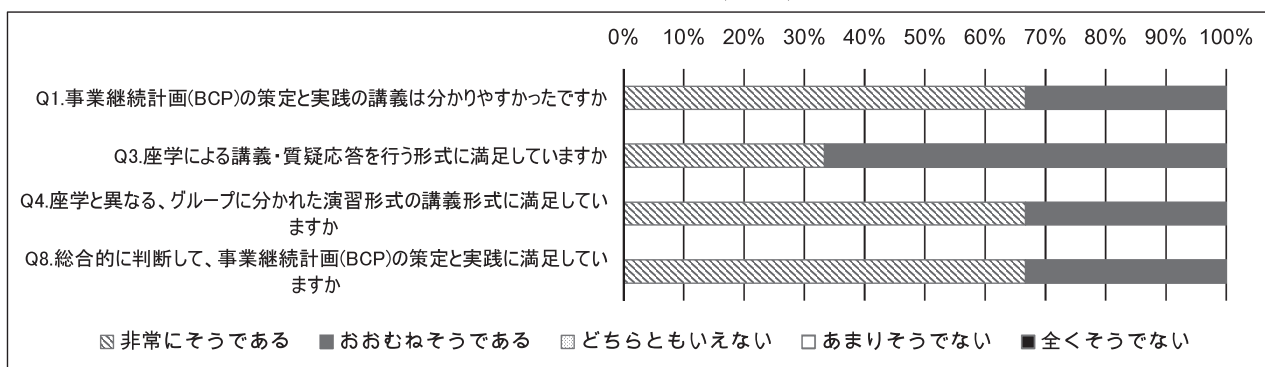


図-4 授業評価アンケート結果 (事業継続計画(BCP)の策定と実践：大学院生 n=6)

参考文献

1) 三上卓・中野晋・金井純子：社会人および大学院生を対象とした危機管理人材育成プログラムの実践—四国防災・危機管理特別プログラム—, 平成27年度大学教育カンファレンス in 徳島, 2015.

ラムの実践—四国防災・危機管理特別プログラム—, 平成27年度大学教育カンファレンス in 徳島, 2015.

口頭発表